



春の受験戦略：合格への「地図」を描く

志望校が決まらない受験生が、今すぐ「10校」選ぶべき理由

「とりあえず勉強」の罠

志望校が曖昧なままだと、勉強の方針も曖昧になる。

The Trap

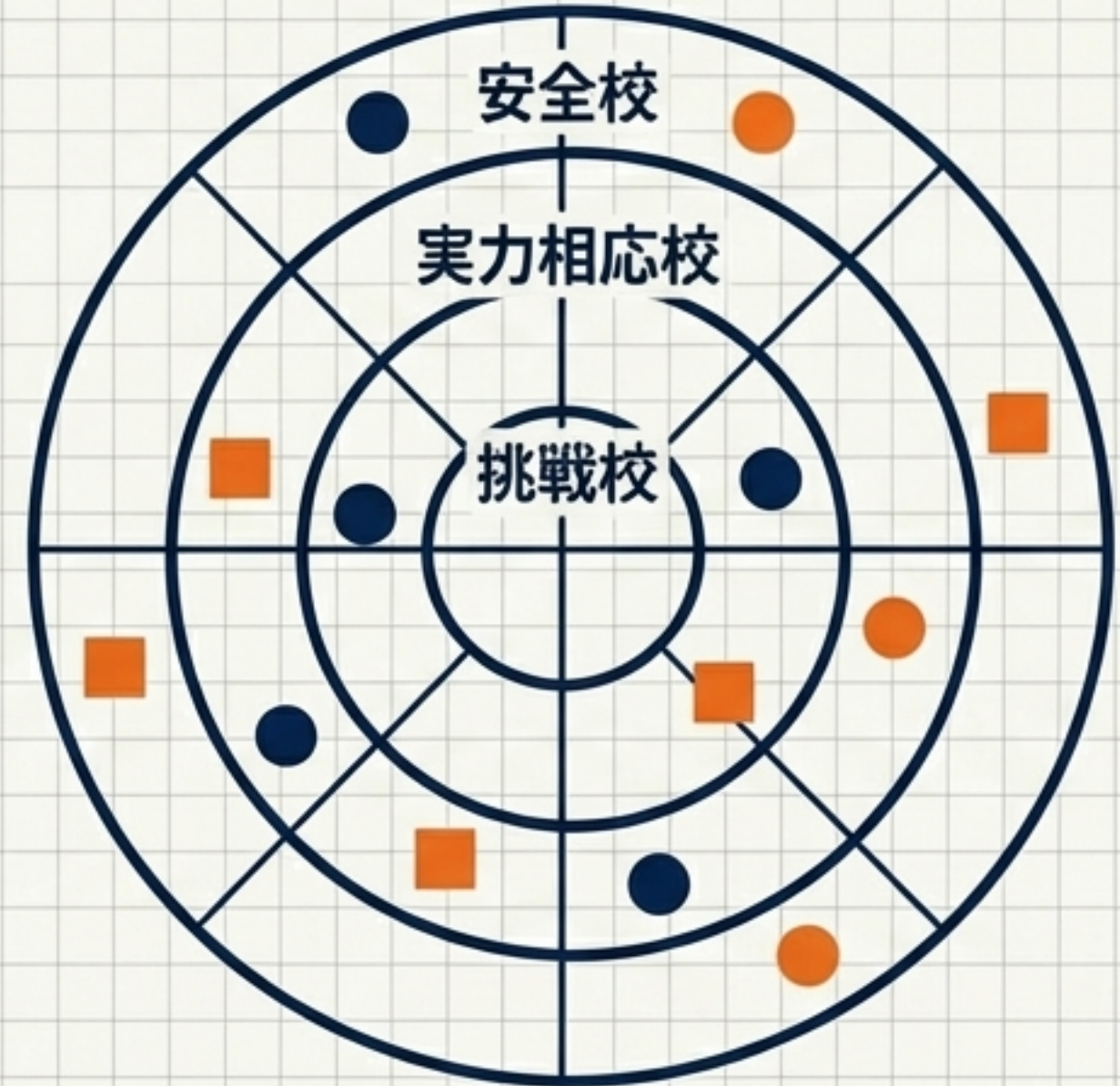
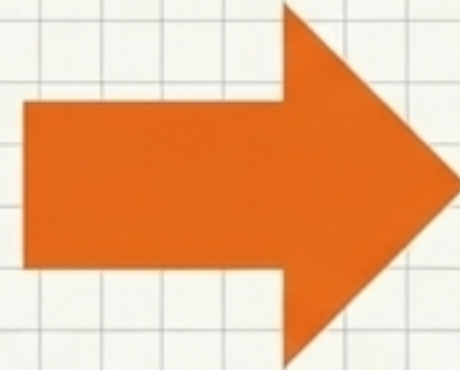
The Goal



目標が定まらない時期の「やみくもな努力」は、限られた時間を奪います。
全体がぼんやりとした学習から脱却しなければなりません。

春のミッションは「1校に絞る」 ことではない

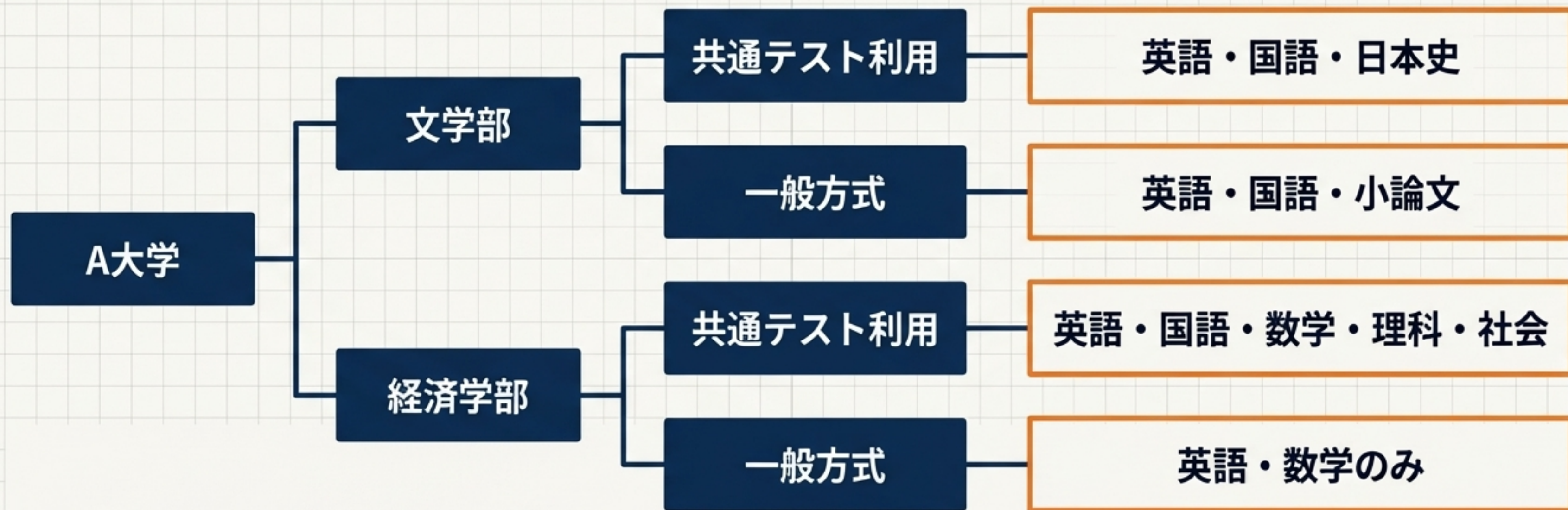
最終的な受験校を決めるのではなく、
比較・分析のための「候補を10個」集める。



国公立・私立を問わず、幅広いレベルをリストアップし、
複数校を比較できる状態を作ることが戦略の第一歩です。

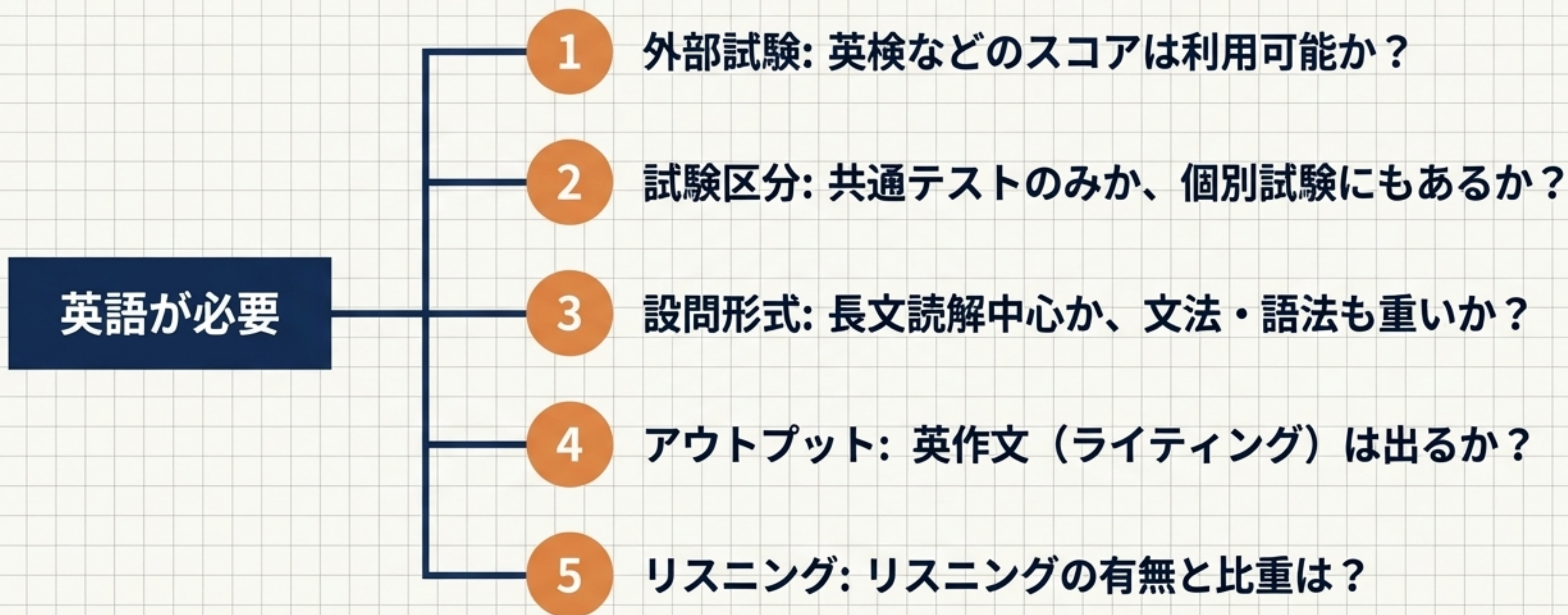
「なんとなく」が命取りになる科目と方式

同じ大学でも、学部や入試方式で「必要な科目」は全く異なる。



志望校を並べて初めて、「この方式は国語が不要だった」「ここでは数学が必須だった」という事実が見えてきます。後からの軌道修正には膨大なコストがかかります。

「英語」の解像度を上げる



「どの形の英語が必要なのか」を特定しなければ、対策は始められない。

受験戦略マトリクスの作成

大学名	学部・学科	方式	位置づけ	必要科目	英語の特記事項
A大学	文学部	一般	挑戦校	英語・国語・日本史	個別で長文・英作文あり
B大学	経済学部	共通テスト利用	実力相応	英語・国語・数学	英検利用可、 リスニング比重高



頭の中だけで考えるのではなく、必ず「紙（一覧表）」に書き出して可視化する。
これが受験プランを客観視する最強のツールになります。

チューター相談の「質」を変える

受け身の相談



「どこを受ければ
いいですか？」



一般的で漠然とした
アドバイスしか得られない。

戦略的な相談



「この10校で考えています。
この方式なら受けられそう
ですが、英語はこういう対策が
必要だと思っています。」



「このままだと方式に無理がある」
「この科目を優先しよう」という、
具体的でピンポイントな指摘を引き出せる。

戦略から「戦術」へ落とし込む

必要な力に合わせて、やるべき「具体的な練習」を早めに始める。

「英作文が必要」と判明



自学ではなく、実際に書いて
「第三者の添削」を受ける。

「リスニング重視」と判明



聞き流しをやめ、「ディクテーション
(書き取り)」で音の認識を鍛える。

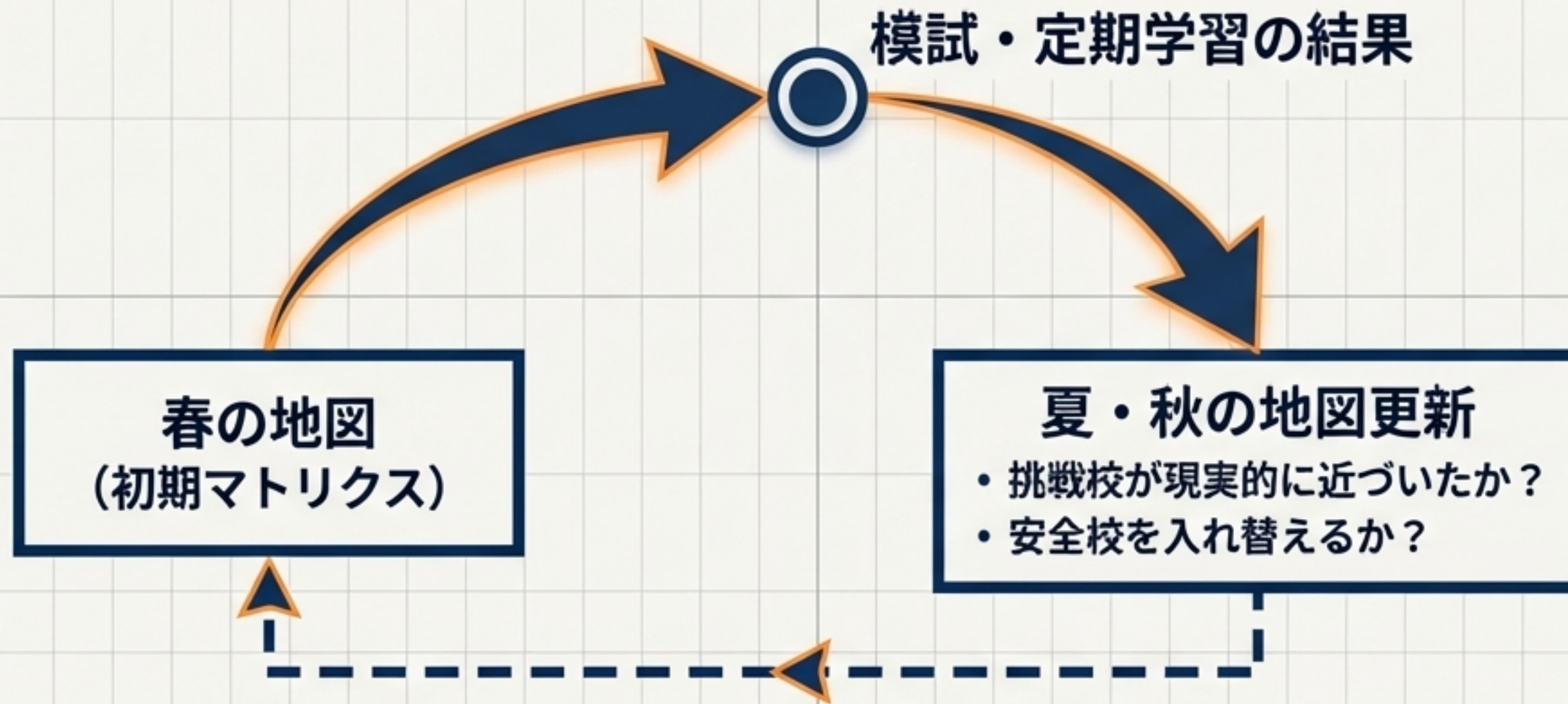
「長文読解が重い」と判明



時間を測って読むタイムマネジメント演習。

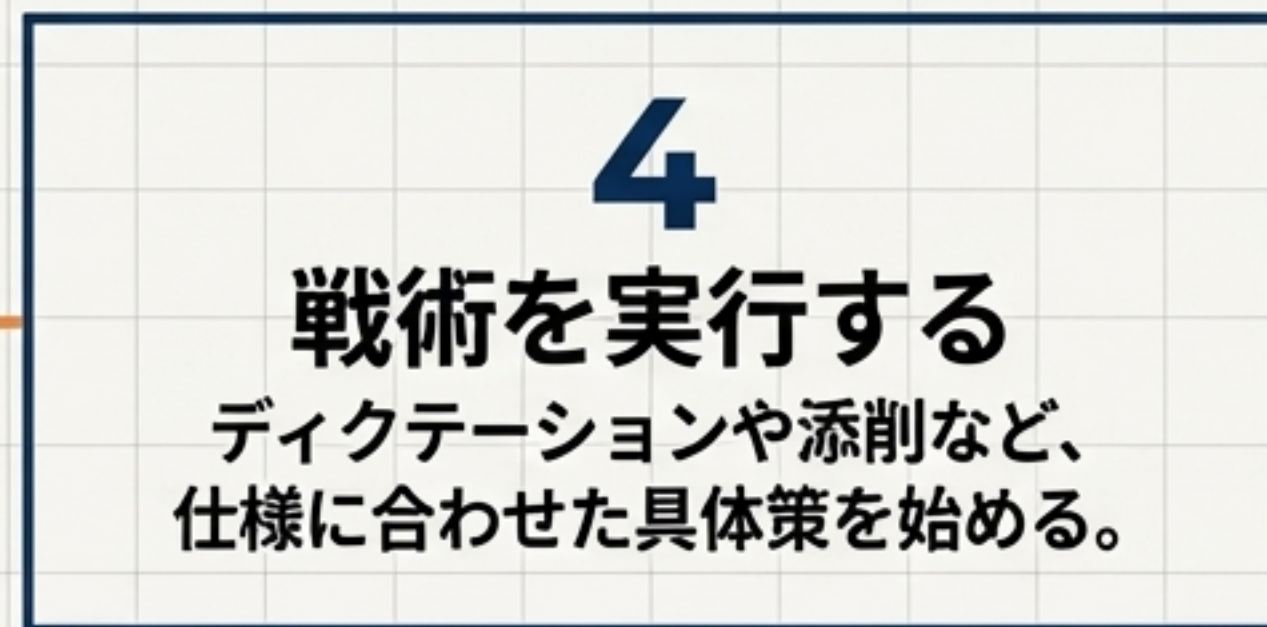
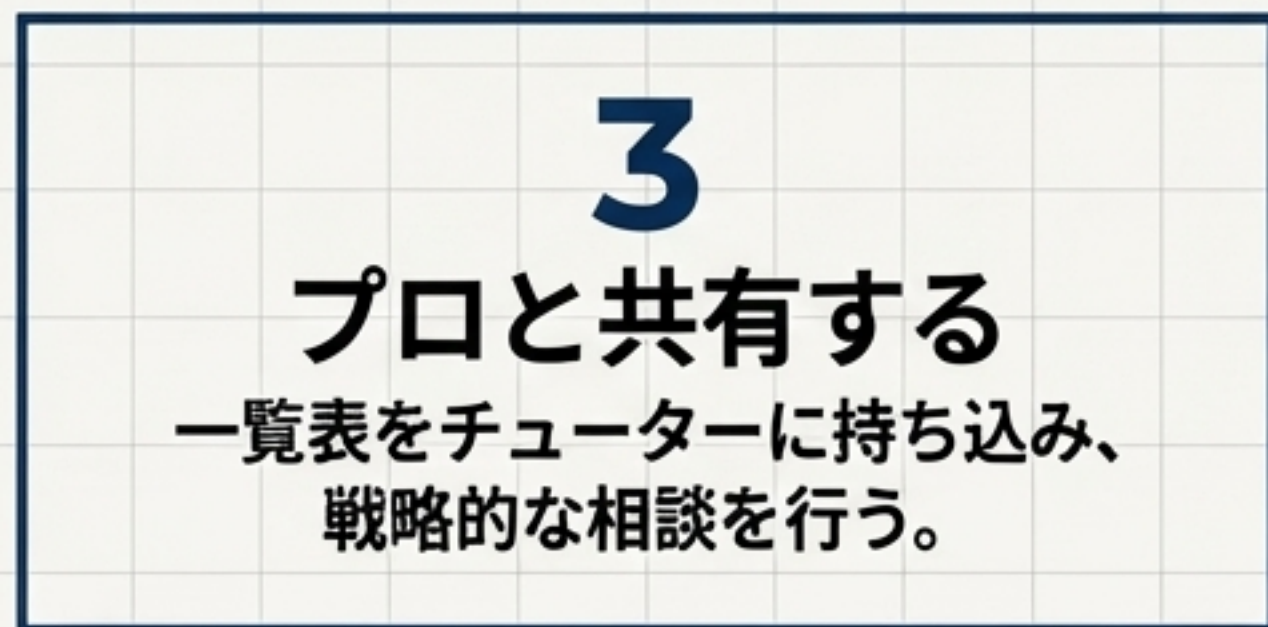
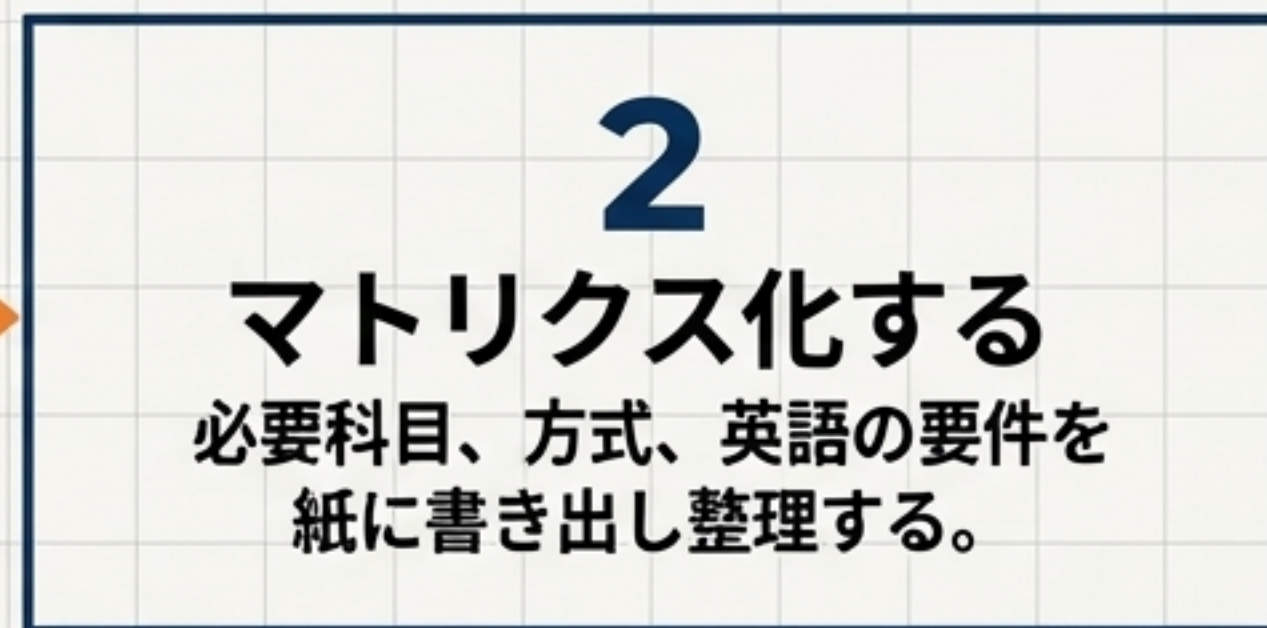
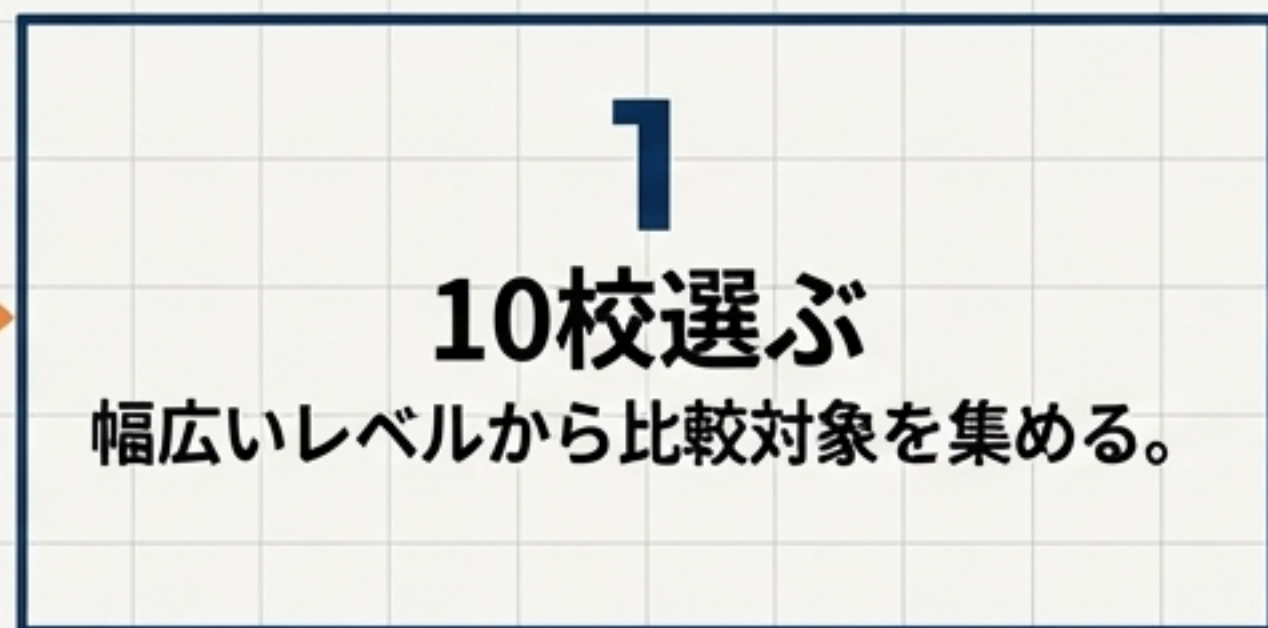
成長に合わせて「地図」を更新する

志望校リストは、成績の推移を見るための「基準表」である。



春に作った地図は、一度決めたら終わりではありません。
今の自分と過去の自分を比較・調整するための土台となります。

春に完成させる4つのステップ



最初に整理したその一枚が、これからの受験勉強全体の地図になる。